

日本聖公会

ウィリアムス 神学館ニュース

2017年
第96号

The Bishop Williams
Theological Seminary
NEWS

日本聖公会
京都教区
発行 編集人
吉田雅人
〒602-8011

京都市上京区烏丸通
下立上る桜鶴門町 380
☎ 075(431)5406
FAX 075(431)5445
Williams@muc.
biglobe.ne.jp
察 ☎ 075(431)5408

伝えることは学ぶこと

前川 裕

最近の大学業界で流行しているのは、「ラーニング・コモンズ (Learning Commons)」です。これは、学生がお互いに教え合うことを目的とした場所のことで、専用のスペースや機材、またスタッフが準備されています。私の勤める関西学院大学でも、日々学生たちがその場所を活用している様子を見かけます。

例えば、私自身が大学生だったころは「生同士で学び合う」という意識は希薄だったように思います。勉強する場所として挙げられるのはまず図書館ですが、これは今も昔も私語厳禁ですから、原則としてひとりで学ぶことになりました。では、お互いに勉強する場はどこだったのだろう、と思いついて、ほとんど記憶にありません。空いていた教室か、あるいは学生食堂や近隣の喫茶店などだったでしょうか。

「生同士が教え合う」場所がつくられるようになったのは、教えられる学生だけでなく、教える学生にとっても様々な気づ

きを得られる機会となるのが重視されてきたからです。といっても、このような発想は新しいものではありません。紀元一世の哲学者セネカが、「大々は教えながら学ぶ」と書いています (『道徳書簡』第7書簡8節)。ラテン語の成句としては、「ドケンドー・デイスキムス Docendo discimus」、教えることによって我々は学ぶ」という形で知られています。

人々が教え合うことによってお互いを向上させていくことができるというのは、教会の場も同じだと思えます。自分が知っていることを誰かに伝えようとすると、しばしば適切な言葉が見つけれないことがあります。イエス様について、神様について、キリスト教信仰について伝えようとするとともに、同じようなことが起こります。そのときに、自分の理解があやふやであったこと、知らないことがあったことに気づきます。それによって、また学ぶ機会を与えられることになり、自らの理解や信仰を深めていくことができるようになるのではないのでしょうか。

伝道とは「道を伝える」ことですが、伝

える」ことは相手のためだけでなく、自分のため (学び) にもなる、ということが言えるかもしれません。教会は、信徒と教役者と、また求道者を含めた全ての人々とがともに学び合う場となる時、真の意味で「教会」となるのだと思います。道を伝えること」を通して、これからも私たち自身が学ぶ者であり続けたいと願います。
まえかわゆたか (新約学担当)



三月に三名の卒業生を京都教区と九州教区にお返しし、四月には大阪教区と沖縄教区からお二人の新人をお迎えした。春は別れと出会いの季節である。私たちの国では卒業式や入学式という、人生の節目を形成する大切な儀式なのだが、日神学生から興味深いことを教えてもらった。彼の母国では、卒業式 graduation はあるが、入学式やそれに該当する言葉はないそうである。もともと graduation も正確には大学の「学位授与式」という意味で、大学に限らず各種学校の「卒業式」を意味するのは米語だそう。へえーと思っていたら、K先生が興味深いことを教えてくださった。これと同じような意味の commencement という言葉があるが、これも英語では「学位授与」、米語では大学の「卒業式」を意味するそうである。ただしこの言葉の第一の意味には「始まり、開始」という訳が挙げられている。動詞形では古英語で「...の職業につく」という意味もある。まさに卒業は終わり、完了ではなく「始まり」なのだ。卒業生の皆さんの新たな始まりに期待したい。
(吉田 雅人)

二〇一六年度 卒業礼拝

―三名が新たに牧会現場に―

三月一七日(金)午前一一時より、二〇一六年度ウイリアムス神学館卒業礼拝が、京都教区主教座聖堂で百名を越える方々の祈りと共に行われました。今年度は、ルカ柳原健之(やなぎはら たけゆき) 聖職候補生(京都教区)、アンデレ松山健作(まつやま けんさく) 聖職候補生(京都教区)、セシリア塚本祐子(つかもと ゆうこ) 聖職候補生(九州教区)の三名が、神学館での三年間の学びを終えて巣立られました。

説教者の武藤謙一九州教区主教は、ヨハネ福音書第21章15節以下の「ヨハネの子シモン、あなたはこの人たち以上にわたしを愛するか」と言われた、イエス様とペトロの対話を引用され、この復活のイエスとペトロとの対話は、羊を飼う働きの前提とはイエスを愛することだ、ということをお話しされた。ご一緒に教える。どんなに素晴らしい賜物や能力をもつていても、イエスを愛することなくして羊を飼うことはできないのであり、イエスを愛することこそが基本中の基本であるということだと述べられました。

そしてそれ故にまた、羊を飼うことはすなわちイエスに従うことであり、それ



卒業礼拝終了後の記念撮影

は単に誰かの後についていくと言うのではなく「信じて従う」、イエスを主と信じて従うこと、さらに「従う」とは、十字架を背負って従うのであり、苦難や困難を伴うものだと言われました。

「あなたはわたしを愛しているか」と「わたしに従いなさい」という問いは、今日で終わるのではなく、これからもなお問い続けていかなければならない。この問いを持ちつつ、教会内だけでなく広い視野をもって宣教、牧会の働きを担ってほしい。そこには様々な葛藤や挫折が待ち受けているかもしれないが、そんな時にこそ、日々の礼拝と黙想の中でこの言葉に思いを巡らせつつ、「わたしを愛しているか」「あなたは、わたしに従いなさい」という二つのイエスのみ言葉に励まされ、またこのみ言葉を尋ねつつ歩んでいただきたい、と結ばれました。

その後、列席教員全員によって祈りが献げられ、館長より卒業証書、修業証書が手渡されました。

式後は会場を京都教区センターに移し、多くの方々からのお祝いや励ましの言葉、そして心づくしのごちそうをいただきました。

三人の方々の今後の働きの上に、神様の祝福と導きをお祈りください。

卒業生からの手紙

富山にて

ルカ 柳原 健之

三月にウィリアムス神学館を無事卒業



し、四月から富山聖マリア教会で勤務してあります京都教区聖職候補生の柳原健之です。早いものでこちらに来てから一ヶ月以上が経ちました。初めて来た土地であります、とても住みやすくもう半年くらい住んでる気分です。こちらでは社会福祉法人聖マリア会の下に、富山聖マリア保育園、院内保育所、特別養護老

人ホーム常楽園があります。それぞれ礼拝や行事に参加したり、聖書研究を行ったりと忙しいながらも充実した日々を送っております。

実際に働き始めてから思うのは、やはり学びの大切さであります。神学館において学んだことが身に付いているなど思うことはしばしばあり、三年間学んだことに無駄なところは無いと気づかされます。また、それと同じくらいまだまだ分

Non vosmet sed Viam praedicate Non vosmet sed Viam praedicate Non vosmet

新任地松ヶ崎より

アンデレ 松山 健作



聖光教会 幼稚園に赴任し、はやく一ヶ月が過ぎました。はじめての週の報作り、はじめての聖書日の課作り、はじめての幼稚園業務やはじめての園児に向けた聖書のお話しなどなど

からないこと、聞かれてうまく答えられないことが多々あります。そんな時には日々の学び、そして分からないことを調べて、次の機会には答えられるようにしておかなければならないと強く思われます。至らぬ点が多々ありますが、日々の学びを通して少しずつ成長し、神と人々に仕えていくことができるように邁進していきたいと思えます。

京都教区聖職候補生 富山聖マリア教会勤務

Non vosmet sed Viam praedicate Non vosmet sed Viam praedicate Non vosmet

「はじめて」づくしの一ヶ月が、あっという間に過ぎました。

私の日常は、とにかく目の前に山積みになっている仕事をひとつずつこなしていくという毎日です。わからないことだらけの日常で、わからないことをわからないままに放置せずに進むことが大切であると思いつつ、日々を過ごしています。

私にできることは、与えられた賜物の中でゆつくりと焦らずに、共に働く方々と相談しながら歩むだけです。それだけで精一杯というのが現状です。自分の中で限界は作ってはならないのでしようが、その限界を超えてもいけないと感じています。嬉しいことも、楽しいことも、困難なこととも神さまにお任せし、一歩ずつ進みたいと思えます。

日常は「ああすれば良かった、こうすれば良かった」という失敗の連続でありませぬ。すべてが前進する歩みではありません。少しでも神さまのお働きに参与できればと祈りつつ、歩むことができればと思います。

京都教区聖職候補生 聖光教会勤務

誰のニーズか？

セシリア 塚本 祐子



「思っていたのと違っても、誠意を尽くして…」と言葉をいた

だいた入学前、現実には（思っていたこと）ではなく（想像だにしなかったこと）づくめ。中でも週末また休暇中の実習教会における自分の立場は、それまでの教会生活とは異なるものだった。

二年次の臨床教会訓練で受けた問いかけ、自分がしようとしている（した）行動、「それは誰のニーズか？」。相手の喜びや必要を考えない手助けは自己愛である。（教会を船に喩えてナウエンは、牧師は船長ではないと言った。）人を喜ばせて自分が好人物になる事を求めているのか。いつも頭の端に引っかかっていた。「牧会者」そんな名称に見合うだけの力なぞ何年経っても自分に備わる見込みはないとしか思われなかったし、勉強に関しては体力が及ばないのでとは絶えず不安だった。だからやめる、のか。だけどする、のか。

神学館内外の方々、九州教区のお支えとお祈りによって卒業という小さな前進が叶った。福岡パウロ教会において「勤務」を許されたとは言え、主教と司祭の庇護の下である。「できる事」なぞまだ何もない。「誰のニーズか？」そして、主は私に何を望みか。問いつつ進んでいく道でありたいと思っている。

九州教区聖職候補生 福岡聖パウロ教会勤務



今年の卒業生は何処に？

△卒業する三人の神学生

二〇一七年度 入学礼拝
 一人名が新たな学びを共に

四月五日(水)午前一二時より、二〇一七年度ウィリアムス神学館入学礼拝が、京都教区主教座聖堂 聖アグネス教会)で約三五名の方々の臨証を得て行われました。今年度、入学されたのは山本直樹さん(大阪)と仲宗根遼祐さん(沖縄)のお二人です。

館長は説教の中で、私たちが目指している『奉仕職』とは、『仕える職務』ですが、この『仕える』というギリシア語は、



宇治カルメル会修道院の庭で

ももとは『食卓で給仕する』という意味でした。つまり『仕える』とは、まさに『誰か特定の人』の役に立つためになされる奉仕というのが基礎にあるようです。しかもそれは、イエス様の言葉と行いに方向づけられた、キリスト者の生き方の基本を表す中心的な表現でした。そうしますと、私たちの課題とは、この『誰か特定の人』というのは、どのような人なのかということでありましょう。今日の福音書(ヨハネ11:17-44)の物語で言いますと、私たちの関心は、ラザロがどのようにして復活したのかではなく、この物語の中でイエス様が私たちに示してくださった、『誰か特定の人』とは、どのような人のことなのか、であります」と問いかけました。そして最後に、『私たちが仕えるべき『誰か特定の人』を見出す旅路を歩み始めようとしている神学生が、私たちに先立って歩んでくださるイエス様をしっかりと見詰めるながら、テクテクと一歩ずつ、奉仕職に向けての歩みを、進めることができますよう、お祈りいたされれば幸いです』と結びました。その後、『新入生は誓約をし、教員たちの祈りのうちに入学を許可されました。式後は教区センターでささやかな祝会がもたれました。』

翌日から、神学生達は宇治のカルメル会修道院で、竹林徑(二司祭 大阪教区)の指

導のもとでリトリートを行いました。二日目からは『神学すること』について共に考えたり、バイブルシェアリングを通して、新学期に向けての準備の時を持ちました。

お世話になります
教会実習

今年度も教会実習でお世話になります。よろしく願っています。

3年生

ヒューム・W・ユ一ワン 芦屋聖マルコ教会

バルナバ永野卓也 京都聖三一教会

2年生

ルカ 宮田裕三 京都復活教会

エレミヤ山本直樹 神戸聖ミカエル教会

1年生

ウリエル仲宗根遼祐 西宮聖ペテロ教会

今さら聞けない
キリスト教講座_4

今さら聞けないキリスト教講座4が4月からスタートしました。今年度は岩城 聰先生による、『聖公会って?』です。今年度もインターネットによる動画視聴が可能ですので、今からでも申し込みができます。ご希望の方は、神学館ホームページ(<http://bp-williams-seminary.org/>)の「お問い合わせ」から申し込んでください。

2017年度授業紹介

文獻講読 (1年)	司祭 黒田 裕	バイコンI・II (1・2年)	司祭 黒田 裕	説教論 (3年)	司祭 黒田 裕
英書講読 (1年)	司祭 黒田 裕	教理学I (2年)	司祭 岩城 聰	牧会学 (3年)	司祭 吉田 雅人
哲学入門 (1年)	菊地 伸二	聖公会論 (2年)	司祭 岩城 聰	今日の宣教 (3年)	司祭 岩城 聰
旧約入門 (1年)	勝村 弘也	礼拝学II (2年)	司祭 吉田 雅人	法憲法規特講 (3年)	司祭 浦地 洪一
新約入門 (1年)	前川 裕	ギリシア語II (2年)	菊地 伸二	◎ギリシア語III (3年)	菊地 伸二
教会史 (1年)	菊地 伸二	臨床牧会訓練 (2年)	日本ハプテスト病院	◎ハフライ語II (3年)	司祭 下田屋 一朗
礼拝学I (1年)	司祭 吉田 雅人	旧約神学 (2・3年)	勝村 弘也	◎教会音楽 (全学年)	辻 彩乃
ギリシア語I (1年)	主教 高地 敬	新約釈義 (2・3年)	嶺重 淑	聖書研究 (全学年)	吉田司祭 黒田司祭
		教理学II (3年)	司祭 岩城 聰	夏期実習 (全学年)	吉田司祭 黒田司祭
		キリスト教倫理学(3年)	シユベネマン	※ 旧約釈義、新約神学、日本キリスト教史、ラテン語I、II、ハフライ語Iは休講	

神学館の三学期

- ☆1月5日木、入寮日
- ☆1月6日金、リトリート
- 指導石垣 進執事 京都教区
- ☆1月8日日、他教派礼拝
- ☆1月10日火、3学期授業開始
- ☆1月12日水、
- 法憲法規特別講義 浦地司祭
- ☆1月14日土、
- 3学期教会実習開始
- ☆1月30日(月)、
- 京都教区教役者会公開講座参加
- ☆2月8日木、入学試験、2名が受験
- ☆3月2日水、卒業小論文発表会
- ☆3月4日土、3学期授業終了
- ☆3月7日火、9日土、総合試験
- ☆3月7日火、11日土、試験週
- ☆3月12日日、3学期教会実習終了
- ☆3月17日金、卒業礼拝

聴講生

今年度は次の方々が神学館の授業を熱心に聴講しております。

西村和樹さんが京都教区が礼拝学Iと旧約入門を、辻彩乃さんが大阪教区が礼拝学IIを、麓敦子執事が礼拝学IIを、野間光顕さん神戸教区が礼拝学IIと聖公会論を聴講しております。

主の平安をお祈りいたします

*二〇一七年五月七日日、本館卒業生のヨハネ一杉経法司祭が逝去されました。

聖職叙任おめでとうございます

- 卒業生の聖職按手式が行われました。今後のお働きに神様のお導きを祈ります。
- 3月25日土、神戸聖ミカエル大聖堂で、イサク坪井 智執事が公会の司祭職に叙任されました。
 - 3月25日土、神戸聖ミカエル大聖堂で、セバスチャン浪花朋久執事が公会の司祭職に叙任されました。
 - 3月25日土、神戸聖ミカエル大聖堂で、テモテ遠藤洋介聖職候補生が公会の執事職に叙任されました。
 - 5月3日水、大阪教区主教座聖堂で、ペテロ金山将司聖職候補生が公会の執事職に叙任されました。